

甲 第 号

平井 香衣子 学位請求論文

審 査 要 旨

奈 良 県 立 医 科 大 学

論文審査の要旨及び担当者

	委員長	教授	吉栖 正典
論文審査担当者	委員	教授	上村 秀樹
	委員(指導教員)	教授	斎藤 能彦

主論文

Impact of atrial fibrillation on the prognosis of acute decompensated heart failure with and without mitral regurgitation.

僧帽弁閉鎖不全症を伴うまたは伴わない非代償性急性心不全患者の予後に心房細動が与える影響

Kaeko Hirai, Rika Kawakami, Maki Nogi, Satomi Ishihara, Yukihiro Hashimoto, Yasuki Nakada, Hitoshi Nakagawa, Tomoya Ueda, Taku Nishida, Kenji Onoue, Tsunenari Soeda, Satoshi Okayama, Makoto Watanabe, Hiroyuki Okura, Yoshihiko Saito.

Circulation Reports. 2021 Jun 12;3(7):388-395.

論文審査の要旨

心房細動（AF）と僧帽弁閉鎖不全症（MR）は心不全に併存することが多い。しかし、MRを伴う心不全患者の予後にAFが与える影響について検討は少ない。

平井は、NARA-HF研究に登録された（急性非代償性心不全のため2007年1月から2016年12月に当院に入院した）1074例のうち、手術適応の弁膜症例、MRの重症度データのない例、院内死亡例を除いた867例を対象とした。退院時経胸壁心エコーで軽度・中等度MRの有無と退院までのAFの有無で4群に分類して検討した。主要評価項目は心血管死と心不全関連再入院の複合エンドポイントとした。追跡期間は中央値621日であり、398例（45.9%）が主要評価項目に到達した。軽度・中等度MRを伴う心不全患者において、AFの併存は予後不良となった。これは左室駆出率やAF typeにかかわらず同様の結果であった。年齢、性別、腎機能などの各因子調整後も軽度・中等度MRを伴う心不全患者において、AFは予後規定因子であること（ハザード比; 1.381, 95%信頼区間; 1.022-1.866, P=0.036）、軽度MRのサブグループ解析でも同様の結果であったことを明らかにした。

公聴会では、僧帽弁以外の重症の弁膜症が対象に含まれているか？という質問に対しては、重症の大動脈弁疾患は除外されているが、三尖弁閉鎖不全の程度は考慮されておらず、今後の課題であると回答した。また、MRとAFは卵と鶏の関係であるとの質問に対して、今回は正確に解析できていないが、最近注目されている心房性のMRとそれ以外を分けて解析することによってある程度AFとMRの原因結果関係が想像でき、それらの症例でのAFの予後に与える意義を解析することが重要であると回答した。また、心不全ではAFの治療介入をMR合併症例では積極的に考えるべきかとの質問に関しては、実臨床で今回の結果で、アブレーションの適応をより積極的に考えられるようになり、今後前向き研究を実施することも含め考えたいと回答した。以上、適切な討議であり、参考論文を含め学位に値する研究と考える。

参 考 論 文

1. Low Insulin Is an Independent Predictor of All-Cause and Cardiovascular Death in Acute Decompensated Heart Failure Patients Without Diabetes Mellitus.
Nogi M, Kawakami R, Ishihara S, Hirai K, Nakada Y, Nakagawa H, Ueda T, Nishida T, Onoue K, Soeda T, Okayama S, Watanabe M, Saito Y
J Am Heart Assoc.9(10): e015393, 2020

2. Incidence and Clinical Significance of 30-Day and 90-Day Rehospitalization for Heart Failure Among Patients With Acute Decompensated Heart Failure in Japan - From the NARA-HF Study.
Ishihara S, Kawakami R, Nogi M, Hirai K, Hashimoto Y, Nakada Y, Nakagawa H, Ueda T, Nishida T, Onoue K, Soeda T, Okayama S, Watanabe M, Saito Y
Circ J. 84(2):194-202, 2020

以上、主論文に報告された研究成績は、参考論文とともに循環器病態制御医学の進歩に寄与するところが大きいと認める。

令和3年9月14日

学位審査委員長

情報伝達薬理学

教授 吉栖 正典

学位審査委員

先天性心疾患診断治療学・心臓形態

学

教授 上村 秀樹

学位審査委員(指導教員)

循環器病態制御医学

教授 斎藤 能彦